



St. Luke's International University Chapel

聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 TEL 03-5550-2416 (事務室)

E-mail : chapel@luke.ac.jp URL <http://nssk.org/tokyo/church/luke>

マルコ福音書 12 : 28-34 (聖霊降臨後第 24 主日、2024/11/03)

「愛」

チャプレン ヨナ 成成鍾司祭

20 世紀を代表する歴史家ヨハン・ホイジンガ (Johan Huizinga、1872-1945) は、人類は何かを作る人、工作する人として「ホモ・ファーマベル (homo faber)」であるが、それより先に遊ぶ人として「ホモ・ルーデンス (Homo ludens)」であったと語りました。つまり、人間にとって遊びとは、何かを作りながら築き上げた文明や文化よりも古い営みであるということです。また人類学者たちの研究によりますと、ゲームやクイズなどの遊びは宗教とも掛け離すことのできない営みとして人類の精神史と共に進化してきたそうです。今日の福音書は、その遊び、ことに言語ゲームがキリスト教にどのような影響を与えたのかについて伝えています。

国を始め、社会の全ての組織はルールを持っています。国のルールは憲法に基づいていますし、学校や会社のような組織はそれぞれの規則を持っています。宗教も例外ではなく、キリスト教の源流であるユダヤ教には律法というものがあります。ユダヤ教の律法は、10 個の戒めであるモーセの十戒から始まりました。そして時間が経つにつれて段々と数が増え、大きな項目だけで 613 個もの戒めを持つようになりました。613 個の戒めは「しなさい」という命令の戒め 248 個、また「するな」という禁令の戒め 365 個が合わさってできています。ユダヤ人の思想によりますと、248 とは人間の体を構成するあらゆる部分全体を象徴する数字であり、365 とは 1 年の日数のことを指す数字です。つまり、神様がしなさいと命じられたことは全身で実践するという、また 1 年の 365 日間、神様が禁じられたことは一つも破ってはならない、という意味が込められているわけです。

これは素晴らしい意味を持つ律法ではありますが、数が多すぎるため人々にとっては複雑で理解しにくいという不満がありました。それゆえ、ユダヤ教の神学者たちは、律法のコアだけを絞って人々に説明する言語ゲームのようなことを行いました。今日の福音書の中、キリストが律法学者から「あらゆる戒めのうちで、どれが第一でしょうか」(28 節) という質問を受けたのもその一環です。キリストは、律法の 613 項目の戒めのコアを一言に絞って「神様を愛することと隣人を愛すること」(30 - 31 節参考) と表現されました。つまり、神様と人間に関する戒めによって構成されている律法というのは、他ならぬ愛によって成り立ち、愛を通して具現されると語られたわけです。これは、愛があらゆる信仰的なルールの基礎であり完成でもある、愛がなければ信仰自体は何の意味もなくなる、さらには信仰を超えて世の全てにおいて愛こそが全てであるというお話でもあるのです。キリストは愛そのものとして愛の生涯を送りましたが、皆さんはその愛についてどのようなイメージを持っているのでしょうか。

言うまでもなく愛は恋と異なります。愛は恋を包む幅広い概念であって、恐らく世の中に愛より多様な理解と意味を持つ言葉はないかもしれません。人や思想によって、また置かれている状況によってさまざまな理解があり、これだけが正しいとは言えないのが愛というものなのです。では皆さんにとって愛とは何でしょうか。キリストのように、皆さんを言語ゲームに誘いたいと思います。それは、キリストが信仰を超えてあらゆるもののコアだと語られた愛というものを、今度は自分に当てはめて自分の言葉で表現してみるということです。今日一日、皆さんが頭の中で普段何気なくイメージしている愛について考え、それを短い言葉で表現してみてください。例えば『星の王子さま』の作者、サン・テグジュペリ (Saint-Exupéry、1900-1944) は“愛はお互いに見つめ合うことではなく、共に同じ方向を見つめることである”という有名な言葉を残しましたが、皆さんだったらどのように表現しますでしょうか。今日という二度と来ない新たな一日を愛と共に過ごしてみてください。

(※聖書は裏面に記載されています)

<福音書> マルコによる福音書 12章 28~34節

かれ ぎろん き りっぼうがくしゃ ひとり すす で りっば こた み
28 彼らの議論を聞いていた律法学者の一人が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、
たず いたし だいいち
尋ねた。「あらゆる戒めのうちで、どれが第一でしょうか。」²⁹イエスはお答えになった。「第一の
いたし き わたし かみ しゅ ゆいいつ しゅ ところ
戒めは、これである。『聞け、イスラエルよ、私たちの神である主は、唯一の主である。』³⁰心
つ たましい つ おも つ ちから つ かみ しゅ あい
を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』³¹
だいに いたし りんじん じぶん あい ふた いたし
第二の戒めはこれである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる戒めはほかに
りっぼうがくしゃ い せんせい かみ ゆいいつ
ない。』³²律法学者はイエスに言った。「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに
かみ い ほんとう ところ つ ちえ つ ちから つ かみ
神はない』と言われたのは、本当です。』³³そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神
あい りんじん じぶん あい や つ そな もの
を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くすいけにえや供え物より
すぐ りっぼうがくしゃ てきせつ こた み かみ くに
も優れています。』³⁴イエスはこの律法学者が適切な答えをしたのを見て、「あなたは神の国から
とお い しつもん もの
遠くない」と言われた。もはや、あえて質問する者はなかった。